

「紅まどonna」の高品質生産技術

愛媛果樹試の育成品種‘愛媛果試第28号’（♀南香×♂天草；商標名：紅まどonna）は、12月上旬に糖度12、クエン酸1%程度となる食味に優れたカンキツであるが、果皮が弱く果皮障害や裂果、夜蛾被害で正品率が低下する等の問題が生じている。そこで、高品質果生産のための雨よけ栽培と露地栽培における果皮障害軽減方法について紹介する。

雨よけ栽培で高品質果生産

10月中旬から収穫時までの2ヵ月間天井ビニールを被覆して降雨を遮断する雨よけ栽培は、生育後期のクラッキングを軽減し、側面のネット被覆によって夜蛾の被害が回避できるため、正品率が極めて高くなる（図1）。さらに、10月以降に土壤の乾燥が容易に行えるため高糖度の割合が高く、収益性が向上する（図2）。但し、水田転換園等の土壤の乾きにくい園では、夏秋季に降雨が多いと糖度12以上に達しないため8月中旬頃からの雨よけ（屋根フィルム巻き上げ開閉）が必要と考えている。

露地栽培における果皮障害軽減方法

露地栽培の裸果は、10月下旬頃から果梗部にクラッキングの発生がみられ、12月上旬頃には殆どの果実に発生する。そのため、袋かけが必須となるが葉を巻き込んだまま止めると、締め方が不十分となり、隙間から雨水が流れ込んで、液だれ状の亀裂や着色ムラが発生して正品率が低下する。袋かけ資材別の正品果率を調査した結果、片面にロウ引き処理を施した1辺が20cmの紙を傘状に掛ける処理と、袋の底面を裁断した一重・二重袋で果皮障害防止効果が高い傾向がみられている（表1）。現状では、傘かけ処理は安価な反面、作業時間がやや長いことと強風で傘が捲れ上がる場合があるため、底のない一重袋が有効である。但し、夜蛾の被害防止には効果不十分のため注意する。

（栽培班 主任研究員 藤原文孝）

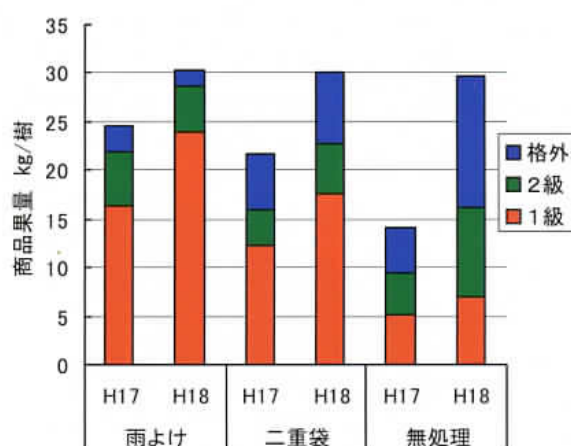


図1 作型別の商品果量

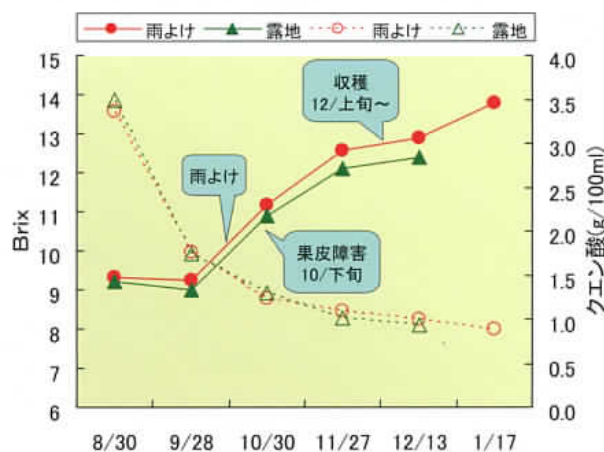


図2 糖酸の推移 (2006)

表1 果実保護の違いとクラッキング、腐敗、商品果率

試験区	クラッキング発生率 (%)			軟果 (%)	腐敗 (%)	商品果率 (%)		
	果梗部	赤道部	果頂部			1級	2級	格外
傘かけ	14.8	1.7	5.1	0.0	0.0	50.0	25.3	24.7
2重袋	34.9	15.0	2.8	0.0	1.9	42.5	23.1	34.4
1重袋	32.9	12.7	0.0	0.0	0.0	41.0	28.3	30.7
2重底無	19.1	13.3	0.0	0.0	0.0	50.3	23.1	26.6
1重底無	19.7	10.3	0.8	0.0	0.0	49.5	28.6	21.9
無処理	79.6	27.8	24.1	12.0	25.9	23.3	31.4	45.3
雨よけハウス	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	78.7	16.0	5.3
有意性	-	-	-	-	-	*	ns	*

注) 1級：M以上の秀、優、良 2級：S果と可品 格外：原料（荷受け無し）
*：異符号間に有意差有り (Scheffe)